

千葉市下田最終処分場
浸出水処理施設建替施設整備・運営事業

審査講評

令和4年12月

千葉市PFI事業等審査委員会

目 次

<u>I</u>	<u>千葉市P F I 事業等審査委員会</u>	4
<u>II</u>	<u>審査方法</u>	5
<u>III</u>	<u>審査委員会開催経過</u>	6
<u>IV</u>	<u>審査結果の概要</u>	7
1	応募者	7
2	入札参加資格審査	7
3	入札参加資格審査結果の通知	7
4	基礎審査	7
5	非価格要素審査	8
6	総合評価（評価値の算出）及び最優秀提案の選定	1 1
7	応募者の構成	1 2
<u>V</u>	<u>総評</u>	1 3

I 千葉市PFI事業等審査委員会

千葉市（以下「市」という。）は、千葉市下田最終処分場浸出水処理施設建替施設整備・運営事業（以下「本事業」という。）における事業提案の審査を公平に専門的知見に基づいて実施するため、千葉市PFI事業等審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置した。審査委員会を構成する委員は、学識経験者等から選出された次の6名である。

表1 審査委員会委員（第1回委員会、第2回委員会、第3回委員会）

所 属	委 員 名
公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
一般財団法人日本環境衛生センター 事業推進役	是則 恭士
西村あさひ法律事務所 弁護士	野本 修
株式会社日本政策投資銀行 地域調査部次長	星 憲太郎
青山学院大学大学院 教授	山口 直也
東京電機大学 教授	山田 あすか

※50音順

表2 審査委員会委員（第4回委員会、第5回委員会）

所 属	委 員 名
公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
一般財団法人日本環境衛生センター 事業推進役	是則 恭士
西村あさひ法律事務所 弁護士	野本 修
株式会社日本政策投資銀行 地域調査部課長	幸村 長
青山学院大学大学院 教授	山口 直也
東京電機大学 教授	山田 あすか

※交代のあった委員のみ変更

Ⅱ 審査方法

審査方法の詳細については、落札者決定基準書に示すとおりである。

本事業では入札参加資格審査を実施した後、基礎審査を実施した。その後、応募者から提出された事業提案書の内容を評価して得点化する非価格要素審査を実施し、技術評価点と入札価格に基づき評価値を算出し、評価値の最も高い事業提案を最優秀提案として選定した。このうち非価格要素審査では、事前に応募者へのヒアリングを実施し、事業提案書の内容についての理解を深めた。

なお、審査にあたっては、応募者番号のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確保した。

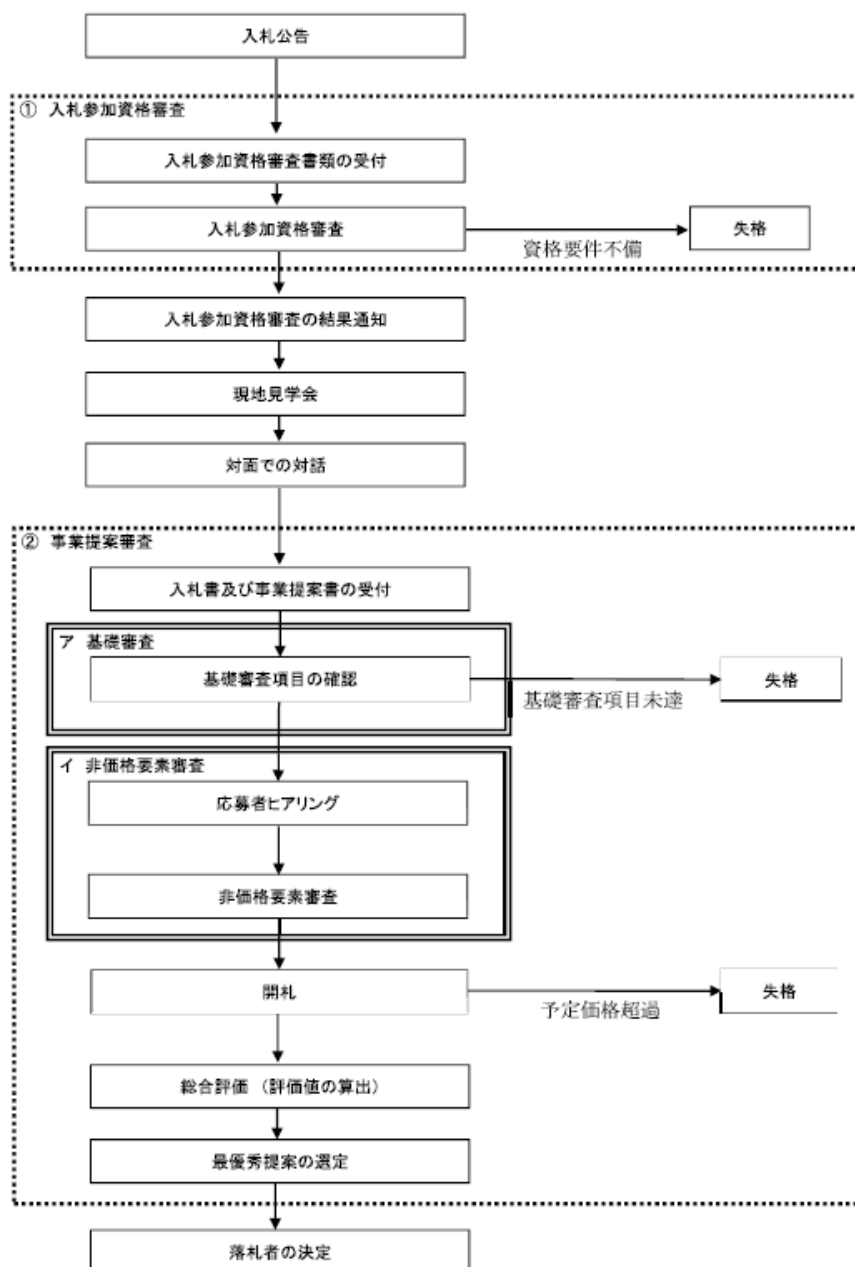


図 1 落札者決定の手順

Ⅲ 審査委員会開催経過

審査委員会の開催経過等は、表３に示すと通りの日程により実施した。

表３ 審査委員会の開催経過等

日 程	内 容
令和３年１１月２４日(水)	第１回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 (事業概要、実施方針(案)、要求水準書(案)等の審議)
令和３年１２月１５日(水)	実施方針及び要求水準書(案)等の公表
令和４年１月１４日(金)	実施方針等に関する質問、意見の受付期限
令和４年２月４日(金)	実施方針等に関する質問、意見への回答公表
令和４年２月１４日(月)	第２回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 (特定事業の選定(案)、落札者決定基準書(案)等の審議)
令和４年３月１８日(金)	第３回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 (要求水準書及び落札者決定基準書の修正、入札説明書等の審議)
令和４年３月２２日(火)	特定事業の選定・公表
令和４年４月１８日(月)	入札公告及び入札説明書等の公表
令和４年５月９日(月)	第１回入札説明書等に関する質問の受付期限 【入札参加資格に関する質問】
令和４年５月１３日(金)	第１回入札説明書等に関する質問への回答公表 【入札参加資格に関する質問】
令和４年５月１６日(月)	第１回入札説明書等に関する質問の受付期限 【入札参加資格以外に関する質問】
令和４年５月３０日(月)	入札参加資格申請書類の受付期限
令和４年５月３１日(火)	入札参加資格審査結果通知・応募者番号の交付
令和４年６月８日(水)	第１回入札説明書等に関する質問への回答公表 【入札参加資格以外に関する質問】
令和４年６月２３日(木)	現地見学会の実施
令和４年６月３０日(木)	対面での対話の実施
令和４年７月８日(金)	第２回入札説明書等に関する質問の受付期限
令和４年７月１５日(金)	第２回入札説明書等に関する質問への回答公表【その１】
令和４年７月２９日(金)	第２回入札説明書等に関する質問への回答公表【その２】
令和４年９月２日(金)	入札書及び事業提案書の受付期限
令和４年１０月２８日(金)	第４回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 (入札参加資格審査結果の報告、基礎審査等の審議)
令和４年１１月２４日(木)	第５回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 (応募者ヒアリング、非価格要素審査・総合評価等の審議)

IV 審査結果の概要

1 応募者

令和4年4月18日に入札公告及び入札説明書等を公表した本事業は、2グループの応募者から参加資格審査書類が提出された。

2 入札参加資格審査

応募者から提出された入札参加資格審査書類について、入札説明書のIVに示した応募者の参加資格要件を満たしているか確認を行った。なお、入札参加資格審査は千葉市において実施した。入札説明書の「IV応募者の入札参加資格要件」に規定する事項を応募者が満たしていることを市が確認した。

3 入札参加資格審査結果の通知

令和4年5月31日に入札参加資格審査結果を応募者へ通知した。

なお、入札参加資格を確認した応募者に応募者番号(紫グループ、緑グループ)を無作為に設定し、企業名等を伏せてその後の審査を行った。

4 基礎審査

応募者から提出された事業提案書に記載された内容が、落札者決定基準書に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。

その結果については、表4に示すとおりである。

表4 基礎審査結果

項 目	合 否	
	紫グループ	緑グループ
◆提出書類の整合確認 ・必要な書類がそろっているか ・書類間の整合が図られているか	○	○
◆事業提案書の要求水準確認 ・事業提案書の内容が要求水準を満たしているか	○	○
基礎審査結果	合格	合格

5 非価格要素審査

(1) 審査の評価基準及び得点化方法

審査委員会において、各提案内容を落札者決定基準書に示した評価項目ごとに評価し、以下に示す評価方法によって算出した値を加算点として付与した。なお、加算点の合計点は50点満点とした。

ア 定性評価

定性評価項目については、表5に示す段階評価で加算点を付与した。

表5 審査の採点基準及び加算点の得点化方法（定性評価）

評価	採点基準	得点化方法
A	当該評価項目において特に優れている	(配点×1)
B	AとCの中間程度	(配点×0.75)
C	当該評価項目において優れている	(配点×0.5)
D	CとEの中間程度	(配点×0.25)
E	要求水準を満たす程度	(配点×0)

イ 定量評価

定量評価項目は、提案数値をもとに評価基準に示した評価方法によって、加算点を付与した。

(2) 審査結果一覧

非価格要素審査結果は表6に示すとおりである。

表6 非価格要素審査結果一覧

審査項目		評価 区分	配点	得点	
				紫グループ	緑グループ
(1) 安定的に浸出水処理が行え、安全・安心な施設及び運営				18.00点	9.75点
ア	プラントの信頼性、耐久性及び施設の長寿命化計画	定性	6	4.50点	1.50点
イ	水量・水質変動への対応	定性	6	4.50点	1.50点
ウ	災害・停電時にも確実に運転再開できる施設・管理体制	定性	4	3.00点	3.00点
エ	運営開始に向けた、適切な工事工程管理計画	定性	3	1.50点	0.75点
オ	既存施設からの切り換え計画（時期、方法等）	定性	3	2.25点	1.50点
カ	事業終了後の引継ぎ計画	定性	3	2.25点	1.50点
(2) 循環型・脱炭素社会に寄与する環境に配慮した施設及び運営				8.75点	3.50点
ア	省エネ設備及び再生可能エネルギー等の導入設備の導入	定性	5	3.75点	2.50点
イ	再生可能エネルギー電力の購入利用割合	定量	5	5.00点	1.00点
(3) 廃止に向けた早期安定化				3.75点	1.25点
ア	最終処分場の早期安定化を図るための対策	定性	5	3.75点	1.25点
(4) 事業計画の実現性・安定性				5.75点	2.50点
ア	セルフモニタリングの実施体制、実施方法	定性	4	2.00点	1.00点
イ	財務の健全性及び安定性の確保	定性	3	1.50点	0.75点
ウ	適切なりスク管理（不測の事態が生じた場合の対応、有事の際の対応等）	定性	3	2.25点	0.75点
加算点 合計（１～４）			50	36.25点	17.00点
標準点			100	100.00点	100.00点
技術評価点			150	136.25点	117.00点

(3) 審査の講評

非価格要素審査の講評は表7に示すとおりである。

表7 非価格要素審査の講評

審査項目		講評
(1) 安定的に浸出水処理が行え、安全・安心な施設及び運営		
ア	プラントの信頼性、耐久性及び施設の長寿命化計画	・紫グループは、地盤沈下対策、防食対策等、施設の長寿命化に関する有効な提案が多くなされている点を高く評価した。 ・緑グループは、全体的に要求水準を満たす内容である点を評価した。
イ	水量・水質変動への対応	・紫グループは、調整槽と浸出水調整槽との連携など、総合的で柔軟な水量変動への対応案を高く評価した。 ・緑グループは、原水水質の変動を見越した積極的な提案を評価した。
ウ	災害・停電時にも確実に運転再開できる施設・管理体制	・紫グループは、太陽光発電による電力確保や災害時の支援体制を高く評価した。 ・緑グループは、非常用発電機の設置による電源確保の確実性を高く評価した。
エ	運営開始に向けた、適切な工事工程管理計画	・紫グループは、具体的かつ詳細な工事計画の提案があり、工程に関する妥当性及び有効性を高く評価した。 ・緑グループは、全体的に要求水準を満たす内容である点を評価した。
オ	既存施設からの切り換え計画（時期、方法等）	・紫グループは、切り替え方法の工夫や生物処理に配慮した切替時期の提案を高く評価した。 ・緑グループは、全体的に要求水準を満たす内容である点を評価した。
カ	事業終了後の引継ぎ計画	・紫グループは、引き継ぎの段階毎に豊富なメニューと具体的内容が提案されており、その妥当性及び有効性を高く評価した。 ・緑グループは、研修の充実や資材調達等の円滑な引き継ぎのための工夫を評価した。
(2) 循環型・脱炭素社会に寄与する環境に配慮した施設及び運営		
ア	省エネ設備及び再生可能エネルギー等の導入設備の導入	・紫グループは、省エネ・再エネ設備を幅広く積極的に導入する提案があることを高く評価した。 ・緑グループは、太陽光発電に対する積極的な提案を評価した。
イ	再生可能エネルギー電力の購入利用割合	・定量評価のため講評なし
(3) 廃止に向けた早期安定化		
ア	最終処分場の早期安定化を図るための対策	・紫グループは、埋立地に対する準好気性確保の提案及びこれらの評価及びフィードバックに関する提案を高く評価した。 ・緑グループは、突出して優れた提案は無いものの、全体的に要求水準を超えている点を評価した。
(4) 事業計画の実現性・安定性		
ア	セルフモニタリングの実施体制、実施方法	・紫グループは、セルフモニタリングの実効性に課題はあるが、充実した実施体制の提案を評価した。 ・緑グループは、突出して優れた提案は無いものの、全体的に要求水準を超えている点を評価した。
イ	財務の健全性及び安定性の確保	・紫グループは、自社の有する類似業務のマネジメント実績を活かし、財務の健全性・安定性確保に関する提案を評価した。 ・緑グループは、資金確保策など資金管理の対策・工夫を評価した。
ウ	適切なリスク管理（不測の事態が生じた場合の対応、有事の際の対応等）	・紫グループは、地震や災害リスクに備えた設計の考え方が示されていること、有効な提案が多いことを高く評価した。 ・緑グループは、リスクを制御するバックアップ体制に課題があり、突出した提案はないものの、全体的に要求水準を満たす提案である点を評価した。

6 総合評価（評価値の算出）及び最優秀提案の選定

応募者の立会いのもとで開札を行い、入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

開札結果を踏まえ、各応募者の評価値の算出を落札者決定基準書に示す以下の計算方法に基づき行った。なお、総合評価の結果については表8に示すとおりであり、評価値が最も高い紫グループ（代表企業：水 i n g エンジニアリング株式会社 首都圏支店）の提案を最優秀提案に選定した。

$$\text{評価値} = \frac{\text{技術評価点}(= \text{標準点：100点} + \text{加算点}) \times 1,000,000,000}{\text{入札価格（消費税及び地方消費税を除く）}}$$

（小数点第4位以下切捨て）

表8 総合評価結果一覧

項目	応募者	
	紫グループ	緑グループ
入札価格(税抜)	3,784,002,000円	4,884,565,000円
技術評価点	136.25点	117.00点
評価値	36.006	23.953

予定価格 : 5,618,459,000円 （消費税及び地方消費税を含む）

入札書対照価格 : 5,107,690,000円 （予定価格から消費税及び地方消費税を除いた価格）

7 応募者の構成

(1)

応募者番号	紫グループ
グループ名	水 i n g エンジニアリンググループ
構 成 員	(代表企業) 水 i n g エンジニアリング株式会社 首都圏支店
	水 i n g AM株式会社 東関東営業所

(2)

応募者番号	緑グループ
グループ名	三菱化工機グループ
構 成 員	(代表企業) 三菱化工機株式会社 環境営業部
	三菱化工機アドバンス株式会社
協力企業	株式会社千都建築設計事務所
	杉田建設株式会社

V 総評

本事業では、2グループの応募者から提案を受け、いずれの提案も技術・運営面において民間事業者の創意工夫やノウハウが盛り込まれた特色のある提案であった。

審査委員会は、千葉市下田最終処分場浸出水処理施設建替施設整備・運営事業において、厳正なる審査の結果、水 i n g エンジニアリング株式会社を代表企業とする水 i n g エンジニアリンググループの提案を最優秀提案として選定した。

最優秀提案は、全体的に具体的で有効と認められる提案が幅広くなされており、すべての評価項目において「C（当該評価項目において優れている）」以上の高い評価となった。

本事業は、既存最終処分場に附帯する浸出水処理施設の整備運営事業であり、将来の水質安定化及び施設廃止までの間、安定した水処理を継続していくことを目指すものであるが、事業実施にあたっては、安定した水処理はもとより、脱炭素社会に向けた環境配慮や、地域住民や跡地利用のゴルフ場にも配慮した安全・安心な施設整備及び運営が求められることにも留意する必要がある。

今後、水 i n g エンジニアリンググループが本事業を実施するに際し、事業提案書での提案内容を確実に実行するとともに、本事業をより質の高いものとするため、次の点について十分に配慮して進める様、審査委員会として要望する。あわせて、事業者には、千葉市の要望事項を尊重し、千葉市と誠実な協議を重ねることにより、本事業がより良いものとなることを期待する。

- (1) 最終処分場の早期廃止に向けた提案内容について、誠意をもって履行するとともに、さらに廃止するための調査研究を続け、市にアドバイス等を行うこと。
- (2) 新しい技術の組み合わせや運営体制面での工夫については、提案内容を履行するとともに、実施データ等の記録及び検証・評価を行い、他自治体や今後の千葉市のさまざまな取り組みに対してのフィードバックが行えるよう、情報提供を行うこと。
- (3) 停電時の対応や運転管理体制について、緊急時の対応という面に課題がある。マニュアル化の充実やグループ構成員の事業ネットワークの活用を積極的に検討し、万全の体制を整えること。
- (4) モニタリング体制について、委託業務評価指標（C I 評価）を用いた評価が適正に行われるように工夫が必要である。総括管理者以外の社内監査員や第三者による監査体制の確立や、評価項目の明確化を検討し、実効性あるモニタリング体制の構築を確実に実施すること。
- (5) 周辺住民に対する配慮として、市との連絡調整を実施したうえで、必要に応じ施設の運転情報や注意喚起情報の周知等、安全確保のための体制を整備すること。
- (6) 運営においてカーボンニュートラル対策に努めること。

令和4年12月23日

千葉市PFI事業等審査委員会 委員長 山口 直也